

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
音楽療法概論		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法の歴史や基本的な考え方を学ぶ。また、様々な活動を紹介しながら、対象者別セッション（音楽活動）の内容・目標・方法等の違いを学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 音楽療法の歴史・定義		11. 音楽療法セッションの計画			
2. 音楽療法の考え方		12. 楽器について			
3. 音楽の生理的・心理的作用		13. 音の活用法			
4. 音楽の社会的機能		14. 音楽療法の評価			
5. 音楽療法の原理		15. まとめ			
6. 音楽療法の実際					
7～8. 障がい児・者の音楽療法		※音楽療法活動のDVD等も、適宜紹介する。			
9～10. 高齢者と音楽療法					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
村井靖児著「音楽療法の基礎」音楽之友社			①平常点 ②学期末筆記試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
人間の尊厳と自立		前田晶子・外崎美香		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
「人間」の理解を基礎として、尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について捉え、介護場面における倫理的課題について対応するための基礎的能力を養う。自己の生活を振り返りながら、「人間」の多面的な理解を図り、生活者として尊厳のある生活・人生を送ることの意味を理解する。					
[授業の内容]					
1. 自己の生活の振り返りと「生活すること」		9. 身体的な意味での「自立支援」の理解			
2. 人間理解と尊厳の考え方		10. 精神的な面での「自立支援」の理解			
3. 尊厳と自立をめぐる人間の歴史		11. 社会的な面での「自立支援」の理解			
4. 尊厳と自立をまもる現代社会のしくみ		12. 介護における権利擁護と人権尊重			
5. 生活をとおした尊厳と自立の理解		13. 介護における「尊厳保持」について			
6. 「権利」と「人権」		14. 介護における「自立支援」について			
7. 権利擁護とアドボカシー		15. 「よりよく生きる」こと			
8. 「自立」と「自律」					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
『新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解』中央法規出版			出席状況、平常点、試験を総合的に評価する。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
心身の発達		加賀谷 幸子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
1・人間の成長・発達の各段階における特徴と課題が理解できる。 2・性差による身体及び役割の違いが理解できる。 3・老化に伴う心身の変化の特徴と日常生活への影響が理解できる。 4・高齢者に多い疾患と観察のポイントが理解できる。					
[授業の内容]					
1・オリエンテーション 2・人間の誕生と成長・発達過程① 3・人間の誕生と成長・発達過程② 性差 4・乳幼児期の成長・発達段階の特徴と課題 5・学童期の成長・発達段階の特徴と課題 6・思春期の成長・発達段階の特徴と課題 7・成人期の成長・発達段階の特徴と課題 8・老年期の成長・発達段階の特徴と課題① 9・老年期の成長・発達段階の特徴と課題② 10・老化による健康上の変化と日常生活への影響① 11・老化による健康上の変化と日常生活への影響② 12・高齢者に多い疾病と症状 13・高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点 14・保健・医療職との連携 15・まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新介護福祉士養成講座 1 1 発達と老化の理解 中央法規 他 適宜紹介			出席率・レポート・テスト・授業態度等の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
高齢者論		福島 猛行		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
高齢者の体験した歴史的事象、文化的背景を理解すると共に、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理的变化の特徴に関する基礎的知識を習得する。 （到達目標）・高齢者の生活文化を理解する・老年期の発達課題を理解する・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響を理解する					
[授業の内容]					
1) 高齢者総論Ⅰ 2) 高齢者総論Ⅱ 3) 高齢者文化史Ⅰ（昭和初期） 4) 高齢者文化史Ⅱ（日中戦争期） 5) 高齢者文化史Ⅲ（太平洋戦争期） 6) 高齢者文化史Ⅳ（戦後混乱期） 7) 高齢者文化史Ⅴ（戦後復興期） 8) 高齢者文化史Ⅵ（高度成長期） 9) 高齢者文化史Ⅶ（景気停滞期） 10) 高齢者の生活に対する気持ち 11) 身体、精神、認知機能の変化と日常生活への影響 12) 老化と高齢者の精神活動 13) 経済的負担と高齢者の生活様式 14) 老化と高齢者の生死観の変化 15) 高齢者の生活改善とエンパワメント					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第11巻 発達と老化の理解 中央法規出版			提出課題、レポート、出席状況で総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
認知症の基礎理解		葛西 淑子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
・認知症を取り巻く歴史的背景や政策、今後の動向、認知症の人の生活実態、行動に対する医学的理解と生活面への影響について学び、的確なケアが提供できるための基礎知識を習得する。					
[授業の内容]					
1・認知症を取り巻く状況 2・認知症の人の生活実態① 3・認知症の人の生活実態② 4・日本における認知症ケアの歴史 5・脳の仕組みと認知症① 6・脳の仕組みと認知症② 7・認知症の原因疾患と検査・治療 8・特徴的行動と脳の機能① 9・特徴的行動と脳の機能② 10・特徴的行動と脳の機能③ 11・特徴的行動と脳の機能④ 12・認知症の人の生活行動と社会生活① 13・認知症の人の生活行動と社会生活② 14・これからの認知症ケア 15・まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第12巻「認知症の理解」			出席率・レポート・テスト・授業態度等の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
レクリエーション実習		木村 博子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期			実習	1単位
[授業のねらい・目標]					
都道府県および市町村レクリエーション協会が地域で行っている事業および行事などをスタッフや参加者として体験する。そしてそれらに参加することで、レクリエーション・インストラクターとしての役割を理解する。					
[授業の内容]					
1. 都道府県および市町村レクリエーション協会が地域でどのような活動を行っているか理解する 2. 上記協会の実施する事業・行事・イベント等でスタッフがどのような働きをしているかを理解する。 3. 福祉レクリエーション大会とうに参加する。 4. 事業・行事・イベントの開催するプロセスや企画・実施方法を参加して体験する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
なし			実習の参加態度をみる。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ボランティア活動と現代社会		前田 晶子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
ボランティア活動について理解を深める。ボランティア活動を日常化し生活の中にとり入れ社会生活や職業生活を豊かにたくましく、生活する力を培う。					
[授業の内容]					
1 ボランティア活動とは		9 制度の充実活用とボランティア活動			
2 歴史と変遷		10 フィールドワーク・・・3			
3 ボランティア活動と人権		11 自己啓発の機会としてのボランティア活動・・・1			
4 活動の原則		12 自己啓発の機会としてのボランティア活動・・・2			
5 フィールドワーク・・・1		13 フィールドワーク・・・3			
6 ボランティアコーディネーターの役割		14 国際的ボランティア活動・・・1			
7 フィールドワーク・・・2		15 国際的ボランティア活動・・・2			
8 市民生活の充実とボランティア活動					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
その都度紹介する。			学習態度、レポート、発表等を総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
音楽の基礎		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
楽典は楽譜を読んだり書いたり、そして、作品を理解するために必要な基礎知識。演奏する時、作曲や編曲をする時、作品を研究する時等、すべての音楽活動のベースになる重要な学習。各項目ごとにまとめながら、確実に理解していきます。					
[授業の内容]					
1. 音部記号、音名、変化記号等		10. 和音①（和音の種類と構成）			
2. 音程①（音程の種類）		11. 和音②（和音の機能）			
3. 音程②（幹音どうしの2音）		12. 強弱・速度、曲想・奏法に関する表示法			
4. 音程③（派生音を含む）		13. 復習①			
5. 音階①（長音階と短音階）		14. 復習②			
6. 音階②（調に関する事）		15. まとめ			
7. 音階③（移調と転調）					
8. 音階④（調の判定）					
9. 音階⑤（その他の音階）					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
石桁真礼生、他著「楽典一理論と実習」音楽之友社			①項目ごとの小テスト ②期末筆記試験 ③出席率や授業態度、以上の総合点。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
コード理論		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法現場はもちろん、各種音楽活動で必要不可欠なコードについて、その構造や響きの特徴、機能や連結の仕方等を学び、与えられたメロディーに効果的で美しいコードをつけられるようにすることを目標とする。					
[授業の内容]					
1. ダイアトニックコード			10. コード・パターンの変化		
2. ノン・コード・トーン			11. ベースラインとカウンターライン		
3. スリー・コード			12. 代理コード②		
4. マイナー・キー			13. テンション		
5. 代理コード①			14. 総合課題		
6. コード・パターン			15. まとめ		
7. セカンダリー・ドミナント					
8. シークエンス					
9. パッシング・コード					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
コード進行の基礎知識（橋本晃一編）			平常点（出席率や授業態度）と筆記試験の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
機能和声		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
コード理論とは別角度からのハーモニーの学習。音楽を専門に学ぶものはある程度知っておかなくてはならない内容。コード理論の裏づけが取れるのでその理解が深まる。また、音楽産業が実施するグレード試験にも対応。					
[授業の内容]					
1. 和音の配置や機能			10. 総合課題①		
2. D-Tの連結			11. 総合課題②		
3. T-D-T、T-T、TとD諸和音の連結			12. 補足（借用和音、V9、転位音等）		
4. IIの和音とIの2転とV、			13. 総復習①		
5. パス課題①			14. 総復習②		
6. パス課題②			15. まとめ		
7. ソプラノ課題①					
8. ソプラノ課題②					
9. V7の2転-Iの連結、VI、IVの和音					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
学生のための和声の要点（伊藤謙一郎、柳田憲一共著）			受講態度や出席率、試験の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ポピュラー音楽史		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽を大別すると『芸術音楽』『民俗音楽』『ポピュラー音楽』の3つに分類できると言われる。それぞれに明確な観念規定を与えることは難しいが、現代社会における音楽環境の中で今や最も高い割合で存在しているこの音楽ジャンルはいったいどのようなものなのか、その歴史をたどりながら考察し、音楽家としての教養を広げることを目標とする。					
[授業の内容]					
第1回 ポピュラー音楽について 1. ポピュラー音楽とは 2. メディアの影響、等 6. 日本のポピュラー音楽、7. ラテン 8. シャンソン、9. カンツォーネ 10. タンゴ、等					
第2回～第13回 代表的なジャンルの定義と歴史 1. ジャズ、2. ロック、3. フォーク 4. 黒人系音楽、5. 映画音楽 第14回 総復習 第15回 まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
資料を配布する			平常点（出席率、受講態度）と試験の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
西洋音楽史		小倉 尚継		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
クラシック音楽の歴史を学び、各時代の特徴・代表的な作曲家とその作品についての理解を深める。					
[授業の内容]					
1～2. 中世・ルネッサンスの音楽 3～5. バロック時代の音楽 6～7. 古典主義時代の音楽 8. 盛期ウィーン楽派の作曲家達 9～11. ロマン主義時代の音楽 12. 国民楽派の音楽家達 13～14. 近代・現代の音楽 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「名曲でたどる音楽史」教育芸術社			期末筆記試験、平常の授業態度		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
基礎ピアノⅠ		笹森、三上、矢野、今		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
鍵盤楽器演奏に必要な基礎的テクニックを音階練習や練習曲などを通して学ぶ。音階は実際の作品によく使われる調を中心に学習する。さらに練習曲を用いて技術の向上を目指す。授業は個人指導の形態で行われる。					
[授業の内容]					
第1回～第14回 音階練習は調号3つまでを最低目標とする。能力に応じ全調まで範囲を広げる。練習曲は基本的に古典作品から選ぶが、能力に応じ範囲を広げる。 いずれも、担当者と相談の上、授業内容を決定する。					
第15回 まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
担当教員の指示による			期末公開演奏（暗譜）		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
基礎ピアノⅡ		笹森、三上、矢野、今		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
基礎ピアノⅠを基に更なる演奏技術の向上を目指し、古典的作品を学ぶ。作品を通してテンポ感、フレーズ感、リズム感、自然な強弱のつけ方、ペダルの使い方を、指の独立等を学ぶ。さらに移調の力を身に付けることもねらいとする。課題はそれぞれの進度に応じて決められる。					
[授業の内容]					
第1回～第14回 それぞれの進度に応じた技術の習得。主に、古典的作品を学ぶ。さらに、与えられた課題を指定されたキーに移調する練習も行う。					
第15回 まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
担当教員の指示による			期末公開演奏（暗譜）		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
基礎声楽Ⅰ		小倉、畑井、吉田		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
個人レッスン形式の演習で、呼吸法や発声法の基礎技術習得を目指す。日本の歌を中心にとりあげ、のびやかに歌唱、レパートリーを増やす。					
[授業の内容]					
1. 呼吸法と発声法について演習		15.		練習曲と任意の声楽曲による 公開演奏試験	
2～14. 練習曲と声楽曲を併用して、技術の向上を図りながらのびやかに歌わせる。					
毎回、階名唱と母音唱、美しい日本歌曲の歌唱を積み重ねる。					
毎回、歌詞の理解とその表現法を追求する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
コールユーブンゲン（全訳）、コンコーネ50番（音楽之友社）、学園愛唱歌集（ドレミミュージック）			実技の公開試験、平常点		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
基礎声楽Ⅱ		小倉、畑井、吉田		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
個人レッスン形式の演習で、呼吸法や発声法の基礎技術向上を目指す。使用曲は日本の歌を中心にとりあげ、弾き歌いができるようにする。					
[授業の内容]					
1. 呼吸法と発声法について演習		15.		練習曲と任意の声楽曲による 公開演奏試験	
2～14. 練習曲と声楽曲を併用して、一層の技術向上を図る					
毎回、階名唱と母音唱、美しい日本歌曲の歌唱を積み重ねる。					
毎回、歌詞の理解とその表現法を追求する。					
弾き歌いも経験させる。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
コールユーブンゲン（全訳）、コンコーネ50番（音楽之友社）、学園歌集（ドレミミュージック）			実技の公開試験、平常点		
授業のタイトル（科目名）	授業担当者	学科	年次		

リトミック演習		角田 美津子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
リトミックのメソッド（動き・ソルフェージュ・即興の3分野）を体感することで、音楽の理論を机上のものだけにせず実践する。その上で、音楽療法や音楽活動の様々な場面で必要になる豊かな音楽的表現力を獲得する。					
[授業の内容]					
1. リトミック入門 2～7. 3分野の演習 ニュアンスの法則 8. DVD「高齢者のリトミック」を鑑賞し レポートする。 9～14. 3分野の演習 音楽療法への応用 15. 試験					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
			出席・レポート・実技試験の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ソルフェージュ I		三上・笹森		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
視唱や聴音を通して音楽の基礎的能力を育成する。授業を効果的に進めるため、能力別に2クラスに分けて行なう。					
[授業の内容]					
1～14. 聴音・視唱の課題を能力に 応じて適宜課す。 聴音・・・リズム・音程・和音・旋律を 聴き分け正しく記譜できるようにする。 （4分の3拍子・4分の4拍子） 視唱・・・音程・調性感・旋律等を重視し、 正確に視唱できるよう課題をこなす。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
柳田 憲一著 「学生のための50のソルフェージュ」			平常点・学期末試験		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

ソルフェージュ II		三上・笹森		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
ソルフェージュ I を踏まえ、更なる向上を目指す。					
[授業の内容]					
1～14. 聴音・・・これまで修得した課題に、 8分の6拍子・臨時変化記号 を適宜含んでいく 視唱・・・これまで修得した内容を更 に発展させた課題に取り組む					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
柳田憲一著 「学生のための50のソルフェージュ」			平常点・学期末試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
コード奏法演習		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
「コード理論」が“頭によるコードの理解”であるとすれば、この授業は“体によるコードの理解”。キーボードを使って実際にコードを演奏することによって、「コード理論」で学んだコードの形態や機能を指や耳で体感し、実践に向けての基礎力をつける。					
[授業の内容]					
第1回～第2回 基礎トレーニング（基本のコード）			第8回～第11回 展開形の和音（その1）		
第3回～第4回 基本形の主要三和音と属七			第12回～第14回 展開形の和音（その2） 借用和音等		
第5回～第7回 代理和音及び和音の連用			第15回 まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「密集型片手伴奏によるコードトレーニング」を中心にコード理論の教科書やプリント			出席率や授業態度、実技の総合評価		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

音楽療法各論（技法）		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法に用いる活動を、詳しく実践を交えながら学ぶ。その過程で、活動の準備に必要な伴奏の技術・歌詞ポスターの書き方などの技術も学ぶ。さらに、高齢者を仮想対象者とするロールプレイも行なう。					
[授業の内容]					
1. 挨拶・自己紹介・会話・質問方法等					
2. 簡単な体操、歌唱と歌詞ポスター					
3. さまざまな合奏					
4. 記録と評価					
5～6. レポートリーの拡大					
7～14. ロールプレイ					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
師井和子著「心にとどく高齢者の音楽療法」			平常点・ロールプレイ等の実技評価・期末筆記試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
高齢者と障害者の福祉		前田晶子・外崎美香		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
福祉の理念や福祉サービスの意義を学び、その上で、高齢者や障害者（児）の福祉制度やサービス、心理等の基本を学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 福祉理念と福祉サービスの意義①					
2. 福祉理念と福祉サービスの意義②					
3. サービス提供の基本視点①					
4. サービス提供の基本視点②					
5. 老人福祉の制度とサービス①					
6. 老人福祉の制度とサービス②					
7. 障害者（児）福祉の制度とサービス①					
8. 障害者（児）福祉の制度とサービス②					
9. ホームヘルプサービス概論①					
10. ホームヘルプサービス概論②					
11. 高齢者及び障害者（児）の心理①					
12. 高齢者及び障害者（児）の心理②					
13. 高齢者及び障害者（児）等の家族の理解①					
14. 高齢者及び障害者（児）等の家族の理解②					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容の状況		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

医学と介護の基礎知識		福島・松橋・川口・三浦		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護の基本原則を学んだ上で、介護業務において直面する頻度の高い障害や疾病を医学的に理解する。また、リハビリテーションの基礎知識を学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 介護概論①		10. 医学の基礎知識②			
2. 介護概論②		11. 在宅看護の基礎知識①			
3. 介護概論のまとめ		12. 在宅看護の基礎知識②			
4. 障害・疾病の理解①		13. 4～12に関する補足とまとめ			
5. 障害・疾病の理解②		14. リハビリテーション医療の基礎知識①			
6. 障害・疾病の理解③		15. リハビリテーション医療の基礎知識②と			
7. 障害・疾病の理解④		まとめ			
8. 障害・疾病の理解⑤					
9. 医学の基礎知識①					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容 の状況		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護援助論		外崎 美香		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
訪問介護に従事する際の職業倫理について理解し、援助対象者の介護事例を通して適切な介護方法を学ぶ。また、高齢者や障害者（児）にとっての住宅や福祉用具への理解を深め、さらに、家事援助の目的と機能や相談援助の方法等も学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 訪問介護員の職業倫理①		10. 家事援助の方法②			
2. 訪問介護員の職業倫理②		11. 家事援助の方法③			
3. 介護事例検討①		12. 相談援助とケア計画の方法①			
4. 介護事例検討②		13. 相談援助とケア計画の方法②			
5. 介護事例検討③		14. 相談援助とケア計画の方法③			
6. 住宅・福祉用具に関する知識①		15. まとめ			
7. 住宅・福祉用具に関する知識②					
8. 住宅・福祉用具に関する知識③					
9. 家事援助の方法①					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容 の状況		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

介護員技術演習Ⅰ		横濱 紀子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標] 介護員養成研修2級課程の4種の演習科目のうち、サービス提供者としての基本的な態度に関するものと、介護技術に関すること（前半）					
[授業の内容] 1. 福祉サービスの基本的な態度① 2. 福祉サービスの基本的な態度② 3. 福祉サービスの基本的な態度③ 4. 基本介護技術-ベッドメイキング① 5. 基本介護技術-ベッドメイキング② 6. 基本介護技術-ベッドメイキング③ 7. 体位、姿勢交換の方法① 8. 体位、姿勢交換の方法② 9. 移動、移乗の方法① 10. 移動、移乗の方法② 11. 歩行介助の方法① 12. 歩行介助の方法② 13. 衣類着脱の方法① 14. 衣類着脱の方法② 15. 補足とまとめ					
[使用テキスト・参考文献] 「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			[単位認定の方法及び評価の観点] 出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容の状況		

介護員技術演習Ⅱ		横濱 紀子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標] 介護員養成研修2級課程の4種の演習科目のうち、介護技術に関すること（前期の続き）と訪問介護計画とレクリエーションに関する演習を行う。					
[授業の内容] 1. 身体清潔の方法① 2. 身体清潔の方法② 3. 食事に関する介護法① 4. 食事に関する介護法② 5. 排泄に関する介護法① 6. 排泄に関する介護法② 7. 緊急時対処法 8. 介護技術の補足とまとめ 9. 訪問介護計画の作成に関する演習① 10. 訪問介護計画の作成に関する演習② 11. 訪問介護計画の作成に関する演習③ 12. 訪問介護計画の作成に関する演習④ 13. レクリエーションに関する演習① 14. レクリエーションに関する演習② 15. 補足とまとめ					
[使用テキスト・参考文献] 「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			[単位認定の方法及び評価の観点] 出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容の状況		
介護員技術演習Ⅱ		横濱 紀子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標] 介護員養成研修2級課程の4種の演習科目のうち、介護技術に関すること（前期の続き）と訪問介護計画とレクリエーションに関する演習を行う。					
[授業の内容] 1. 身体清潔の方法① 2. 身体清潔の方法② 3. 食事に関する介護法① 4. 食事に関する介護法② 5. 排泄に関する介護法① 6. 排泄に関する介護法② 7. 緊急時対処法 8. 介護技術の補足とまとめ 9. 訪問介護計画の作成に関する演習① 10. 訪問介護計画の作成に関する演習② 11. 訪問介護計画の作成に関する演習③ 12. 訪問介護計画の作成に関する演習④ 13. レクリエーションに関する演習① 14. レクリエーションに関する演習② 15. 補足とまとめ					
[使用テキスト・参考文献] 「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			[単位認定の方法及び評価の観点] 出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容の状況		
介護員技術演習Ⅱ		横濱 紀子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標] 介護員養成研修2級課程の4種の演習科目のうち、介護技術に関すること（前期の続き）と訪問介護計画とレクリエーションに関する演習を行う。					
[授業の内容] 1. 身体清潔の方法① 2. 身体清潔の方法② 3. 食事に関する介護法① 4. 食事に関する介護法② 5. 排泄に関する介護法① 6. 排泄に関する介護法② 7. 緊急時対処法 8. 介護技術の補足とまとめ 9. 訪問介護計画の作成に関する演習① 10. 訪問介護計画の作成に関する演習② 11. 訪問介護計画の作成に関する演習③ 12. 訪問介護計画の作成に関する演習④ 13. レクリエーションに関する演習① 14. レクリエーションに関する演習② 15. 補足とまとめ					
[使用テキスト・参考文献] 「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			[単位認定の方法及び評価の観点] 出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容の状況		

介護員実習（事前事後指導含む）		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期			実習	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護員2級取得に向けて、関連授業で修得した知識・技術を活用しながら3種類実習を行なう。					
[授業の内容]					
介護実習・・・16時間 (8時間×2日)					
訪問介護同行訪問・・・8時間 (4時間×2回)					
在宅サービス提供見学・・・6時間					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
実習日誌等			施設からの評価・日誌の記録等により総合的に評価する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
機能と声		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
コード理論とは別角度からのハーモニーの学習。音楽を専門に学ぶものはある程度知っておかなくてはならない内容。コード理論の裏づけが取れるのでその理解が深まる。また、音楽産業が実施するグレード試験にも対応。					
[授業の内容]					
1. 和音の配置や機能 2. D-Tの連結 3. T-D-T、T-T、TとD諸和音の連結 4. IIの和音とIの2転とV、 5. バス課題① 6. バス課題② 7. ソプラノ課題① 8. ソプラノ課題② 9. V7の2転-Iの連結、VI、IVの和音 10. 総合課題① 11. 総合課題② 12. 補足（借用和音、V9、転位音等） 13. 総復習① 14. 総復習② 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
学生のための和声の要点（伊藤謙一郎、柳田憲一共著）			受講態度や出席率、試験の総合評価		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

音楽総合演習		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
音楽教室講師を目指すためのグレード対策を基本に、今まで学んだ音楽技能や知識を使って総合的な学習を行う。					
[授業の内容]					
具体的内容としては、聴音、視唱、伴奏付け、移調奏、初見奏、即興など。					
受講生の希望によりその内容を決定する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
適宜配布			出席率や受講態度、それぞれの課題に対する取組み方、以上の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ポピュラー音楽史		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽を大別すると『芸術音楽』『民俗音楽』『ポピュラー音楽』の3つに分類できると言われる。それぞれに明確な観念規定を与えることは難しいが、現代社会における音楽環境の中で今や最も高い割合で存在しているこの音楽ジャンルはいったいどのようなものなのか、その歴史をたどりながら考察し、音楽家としての教養を広げることを目標とする。					
[授業の内容]					
第1回 ポピュラー音楽について 1. ポピュラー音楽とは 2. メディアの影響、等 6. 日本のポピュラー音楽、7. ラテン 8. シャンソン、9. カンツォーネ 10. タンゴ、等					
第2回～第13回 代表的なジャンルの定義と歴史 1. ジャズ、2. ロック、3. フォーク 4. 黒人系音楽、5. 映画音楽 第14回 総復習 第15回 まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
資料を配布する			平常点（出席率、受講態度）と試験の総合評価		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

作曲・編曲法		小倉 尚継		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
小歌曲「ふるさとの歌・愛の歌」の歌詞と旋律を創作作曲、それに適した小管弦楽の伴奏を編曲することにより、作曲・編曲・楽器機能についての知識や感覚を身につける。					
[授業の内容]					
1. テキストの楽曲分析					
2. 「ふるさとの歌」テーマ設定					
3～4. 同上の歌詞と旋律創作					
5～8. 小管弦楽伴奏編曲・演習					
9～10. 「愛の歌」歌詞と旋律創作					
11～13. 同上 小管弦楽伴奏編曲・演習					
14. 作品集「ふるさとの歌・愛の歌」作成					
15. まとめ 自作自演					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「青森探検、歌のパレード」授業担当者作			作品の完成度、平常の授業態度		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
応用ピアノⅠ		笹森、三上、矢野、今		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
「基礎ピアノⅠⅡ」で学んだ練習法や知識を様々なソロ作品を使って応用する。楽譜に書かれていないこと、むしろ、書くことが出来ない微妙なニュアンスを、作品が持っている様式や記されている情報から読み取り表現する。課題はクラシック作品にこだわらない。					
[授業の内容]					
第1回～第14回 担当教員と相談の上課題を決定し、それぞれの作品について、読譜、技術、音色、構成感、表現法等学ぶ。					
第15回 まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
担当教員の指示による			期末公開演奏（暗譜）		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

応用ピアノⅡ		笹森、三上、矢野、今		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
「応用ピアノⅠ」を継続し、学生個々の演奏能力や目的に応じ課題を選択し、更に深い解釈ができるようにする。					
[授業の内容]					
第1回～第14回 担当教員と相談の上課題を決定し、それぞれの作品の解釈や演奏方法について、更に深く学ぶ。					
第15回 まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
担当教員の指示による			期末公開演奏（暗譜）		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
応用音楽Ⅰ		小倉、畑井、吉田		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
個人レッスン形式の演習。日本の歌が中心となるが、必要に応じ外国の芸術歌曲もとりあげ、レパートリー拡大と歌唱技術向上を目指す。					
[授業の内容]					
1. 呼吸法と発声法についての再度演習		15.		練習曲と任意の声楽曲による公開演奏試験	
2～14. 練習曲と日本・世界の歌を併用して技術の向上を図りながら歌わせる。					
毎回、階名唱と母音唱、美しい歌曲の歌唱を積み重ねる。					
毎回、歌詞の理解とその表現法を追求する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
コールユーブンゲン（全訳）、コンコーネ50番（音楽之友者）、学園歌唱集（ドレミミュージック）			実技の公開試験、平常点		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

応用声楽 II		小倉、畑井、吉田		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
個人レッスン形式の演習。日本の歌が中心となるが、必要に応じ外国の芸術歌曲もとりあげ、レパートリー拡大と歌唱技術向上を目指す。弾き歌いにも慣れさせる。					
[授業の内容]					
1. 呼吸法と発声法についての再度演習		15. 練習曲と任意の声楽曲による公開演奏試験			
2～14. 練習曲と日本・世界の歌を併用して技術の向上を図りながら歌わせる。					
毎回、階名唱と母音唱、美しい歌曲の歌唱を積み重ねる。					
毎回、歌詞の理解とその表現法を追求する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
コールユーブンゲン（全訳）、コンコーネ50番（音楽之友者）、学園歌唱集（ドレミミュージック）			実技の公開試験、平常点		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
伴奏法		笹森 誠		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
コード理論やコード奏法演習で学んだ知識や技能を基本に、良い伴奏をするための基礎的なポイントを押さえ、さらに、曲想に合ったリズムや音形を工夫し、より歌いやすい伴奏をするための方法を学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 良い伴奏とは①		10. より工夫された伴奏②			
2. 良い伴奏とは②		11. より工夫された伴奏③			
3. 様々なリズムパターン①		12. より工夫された伴奏④			
4. 様々なリズムパターン②		13. 総合課題（創作）①			
5. 様々なリズムパターン③		14. 総合課題（創作）②			
6. 様々なリズムパターン④		15. まとめ			
7. 様々なリズムパターン⑤					
8. 様々なリズムパターン⑥					
9. より工夫された伴奏①					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「平田紀子のちょっと嬉しい伴奏が弾きたい」他、プリント配布			出席率や受講態度、実技の総合評価		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

即興演奏		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
楽譜に頼らずに音楽を創り上げていく過程を学ぶ。テーマの簡単な変奏、動き・感情に合わせた独自の音楽を創作する。ヤマハ・カワイなどの音楽教室、音楽療法セッションいずれにも対応できる内容を学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 即興演奏とは何か 2～4. 各種リズムの即興 主に鍵盤楽器を使用するが、内容・個人により、他の楽器を使用することもある。 5～8. 身体の動きに合わせた即興 9～10. モチーフの展開 11～12. 感情表現と即興 13～14. 環境音楽の即興 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
適宜、資料配布			平常点・実技試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
音楽療法各論（臨床）		原沢 康明		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期集中	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法の実践面で必要な知識や技術を対象者別に学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 音楽療法と臨床 9. 高齢者と音楽療法① 2. 精神障害者と音楽療法① 10. 高齢者と音楽療法② 3. 精神障害者と音楽療法② 11. 高齢者と音楽療法③ 4. 精神障害者と音楽療法③ 12. 高齢者と音楽療法④ 5. 身体障害者と音楽療法① 13. 記録と評価 6. 身体障害者と音楽療法② 14. まとめ 7. 障害児と音楽療法① 15. 筆記試験 8. 障害児と音楽療法②					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
日野原重明[監修]、篠田知璋・加藤美知子 [編集]『標準 音楽療法入門 上・下』			筆記試験（80%）及び平常点（20%）		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

音楽療法レパトリー論		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法現場でよく使われる曲について、その時代背景を理解するとともに、作詞者・作曲者の曲に対する想いや心情を追求する。童謡・唱歌や歌謡曲などを季節・年代ごとに取り上げていく。					
[授業の内容]					
1～3. 春の歌、 大正時代の歌謡曲		13～14. 季節を問わない歌 昭和40～50年代の歌謡曲			
4～6. 夏の歌 昭和初期の歌謡曲		15. まとめ			
7～9. 秋の歌 戦後間もない頃の歌謡曲		DVD等の鑑賞を交えながら進める			
10～12. 冬の歌 昭和30年代の歌謡曲					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
適宜、資料配布			平常点・期末筆記試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
音楽療法総合演習		中村 智子		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択		授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法の基礎的な知識や、基本となる音楽活動も実際に体験しながら学習する。					
[授業の内容]					
1. 音楽療法の基礎知識①		9. 音楽療法における楽器の使用法①			
2. 音楽療法の基礎知識②		10. 音楽療法における楽器の使用法②			
3. 高齢者への音楽療法①		11. ロールプレイ①			
4. 高齢者への音楽療法②		12. ロールプレイ②			
5. 高齢者への音楽療法③		13. ロールプレイ③			
6. 障害児への音楽療法①		14. ロールプレイ④			
7. 障害児への音楽療法②		15. まとめ			
8. 精神障害者への音楽療法					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
その都度授業で紹介する。			1. 出席率及び授業態度、 2. レポート		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

医学一般Ⅲ		森 明彦		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護福祉の専門職を展開する上で必要な医学的知識を学ぶ。「医学一般Ⅲ」では、医療システムや医事法制などの、いわゆる保健医療に関する基礎知識や概要等を学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 医療システムの現状①		10. 保健医療対策の概要③：生活習慣病対策等			
2. 医療システムの現状②		11. 医事法制①：医療法			
3. 公衆衛生の動向①：人口動態		12. 医事法制②：医師法			
4. 公衆衛生の動向②：疾病と受療状況		13. 医事法制③：保健師助産師看護師法等			
5. 公衆衛生の動向③：医療関係者の現状		14. 医事法制④：医事法制の概要			
6. 公衆衛生の動向④：医療施設の現状		15. まとめ			
7. 公衆衛生の動向⑤：医療保障制度の概要					
8. 保健医療対策の概要①：老人保健対策					
9. 保健医療対策の概要②：精神保健対策					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
『新版第3版 介護福祉士養成講座⑨ 医学一般』中央法規出版			出席率、授業態度レポートなどの総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
精神保健		村井 靖児		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期集中	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
精神保健の意義と基礎知識について学んだ上で、ライフサイクルにおける精神保健の課題を理解する。地域・生活の場における精神保健について、その課題を考え、対処できる能力を養う。					
[授業の内容]					
1. 精神保健の概要① 意義とその重要性		10. 高齢者の精神障害① 定義や原因、出現率等			
2. 精神保健の概要② 動向		11. 高齢者の精神障害② 症状と問題行動、対応の原則等			
3. ライフサイクルにおける課題① 乳幼児期～幼児期		12. その他の代表的な精神障害の概要（心身症、神経症、躁鬱病、統合失調症等）			
4. ライフサイクルにおける課題② 児童期～思春期		13. 精神保健福祉制度の概要① 精神保健福祉法の概要			
5. ライフサイクルにおける課題③ 青年期～成人期		14. 精神保健福祉制度の概要② 人権保障、社会復帰			
6. ライフサイクルにおける課題④ 老年期		15. まとめ			
7. 地域・家庭における精神保健活動					
8. 職場における精神保健活動					
9. 精神障害とは					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
『新版 介護福祉士養成講座 第4版 ⑩精神保健』中央法規出版			出席状況、平常点、試験を総合的に評価する。		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

老人と障害者の心理Ⅱ(障害者)		前田晶子・外崎美香		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
障害がおよぼす心理的影響について理解する。障害者の心理への対応について理解する。障害者にためらいなく接することができる。					
[授業の内容]					
1 障害とは何か		8 障害の形態と心理的影響・・・1			
2 障害とからだのしくみ・・・1		9 受障時期と心理的影響・・・2			
3 障害とからだのしくみ・・・2		10 障害の受容			
4 障害がおよぼす心理的影響・・・感覚・知覚		11 障害の受容にかかわる要因			
5 障害がおよぼす心理的影響・・・認知		12 適応			
6 障害がおよぼす心理的影響・・・自己概念		13 適応規制			
7 障害がおよぼす心理的影響・・・発達・性格・行動		14 事例を通して対応を考える・・・1			
		15 事例を通して対応を考える・・・2			
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「最新介護福祉全書9 障害者の心理と援助」メヂカルフレンド社			学習態度、レポート、日常の発表、予習情況テスト等を総合的に判断する。		

授業のタイトル(科目名)		授業担当者		学科	年次
リハビリテーション論		川口 徹		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
授業のねらいは、ケアの視点から、広くリハビリテーションを理解することである。授業の目標は、リハビリテーションの基本を把握し、リハビリテーションに関連した介護技術を体得し、障害をリハビリテーションの視点から理解することである。					
[授業の内容]					
1. リハビリテーションの理念と基本原則		9. リハビリテーション介護技術：ADLex			
2. リハビリテーションの領域と役割		10. 障害別リハビリテーション：脳卒中			
3. リハビリテーションに関する社会資源		11. 障害別リハビリテーション：心肺機能障害			
4. リハビリテーションと福祉用具		12. 障害別リハビリテーション：整形外科疾患			
5. 住宅改修、福祉の町づくり		13. 障害別リハビリテーション：高齢者・痴呆・精神			
6. リハビリテーション介護とは		14. 地域リハビリテーション			
7. リハビリテーション介護技術：ROMex		15. まとめ			
8. リハビリテーション介護技術：筋力増強		「三浦雅史、李相潤と分担」			
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
澤村誠志責任編集「リハビリテーション論」メヂカルフレンド社			1. 出席率及び授業態度、 2. 試験、 3. レポート		
授業のタイトル(科目名)		授業担当者		学科	年次

ホームヘルパー技術演習Ⅲ		外崎 美香		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
「介護員」として必要な知識、介護技術の修得					
[授業の内容]					
1、介護事例検討①			9、訪問介護計画に関する演習③		
2、介護事例検討②			10、訪問介護計画に関する演習④		
3、介護事例検討③			11、レクリエーションに関する演習①		
4、福祉サービスの基本的態度①			12、レクリエーションに関する演習②		
5、福祉サービスの基本的態度②			13、レクリエーションに関する演習③		
6、福祉サービスの基本的態度③			14、総合演習		
7、訪問介護計画の作成に関する演習①			15、まとめ		
8、訪問介護計画の作成に関する演習②					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「訪問介護員養成研修テキスト」2級課程 ミネルヴァ出版			出席率や受講態度、各課題の取組み方や提出内容 の状況		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
音楽療法実習（事前・事後指導含）		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	通年	30回	60時間	演習	3単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法実習に向けての心構え・実践計画など、十分な準備をした上で実習に臨み、実習終了後はグループ別にまとめの資料を提出し、発表する。					
[授業の内容]					
1～15. 実習の準備として、レパトリーの拡大に努め、ロールプレイを行いながら、高齢者や施設職員への接し方（マナー）などを身につける。また、実習記録・報告書の記入方法などを学習する			17～29. レパトリーの拡大・ロールプレイの継続その間、2週間の実習をする。実習終了後、グループごとにまとめの資料作成		
16. 観察実習の感想・留意点など報告			30. グループごとに、実習のまとめ・成果を発表		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
適宜、資料配布			平常点・実習施設での評価		
授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次

ホームヘルパー実習		三上・外崎		現代介護福祉学科 音楽保健福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期			実習	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護員2級取得に向けて、関連授業で修得した知識・技術を活用しながら3種類の実習を行なう。					
[授業の内容]					
介護実習・・・16時間 (8時間×2日)					
訪問介護同行訪問・・・8時間 (4時間×2回)					
在宅サービス提供見学・・・6時間					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
実習日誌等			施設からの評価・日誌の記録等により総合的に評価する		